

請願第 25号

平成28年 9月 7日

川崎市議会議長 石田康博様

幸区在住者

ほか 1,203名

川崎市内保育需要の増大に対応するため、新設保育所の4、5歳児保育室等を活用した1歳児クラスの保育所定員枠の拡大に関する請願

#### 請願の要旨

市内保育需要の増大に応えるため、新設保育所の4、5歳児保育室等を活用し、1歳児クラスの保育所定員枠を拡大してください。

#### 請願の理由

本市は交通の利便性が高く共働き世代が多いため、認可保育所の利用申請者が多く、その数は年々増加し、平成28年度の認可保育所利用申請者は過去最多となっております。認可保育所の新規開設を中心に定員枠の拡大を図っているものの、急増する保育ニーズに追い付いていません。平成28年度4月の利用調整で居住区域内の認可保育所、認定保育園に入所ができなかったことから、毎日、自転車で20分以上掛け通勤ルートと反対側にある遠方の保育所へ通っている人たちや職場近くの保育所に入所せざるを得ず、毎朝、通勤ラッシュの中、子どもを保育所に連れて行く人たちが実際におります。また、利用調整の結果、保育所に入ることができず育休期間が終わってしまい退職せざるを得ないケースや、出産を機にやむを得ず会社を辞めたが、自身の資格やキャリアをいかして復職を希望したものの、保育所入所がかなわず復職ができず困っているなどのケースも散見されます。

市内では今後も大型マンションの建設が続くため、そうしたエリアは、若い世代の人口が更に増加し、保育所利用申請者数は今後も増えると予想されます。特に育休明けの1歳児クラスは希望が集中しており、待機児童が増え続けることも懸念されます。

平成28年度の保育所利用調整結果及び大型マンション建設状況を見ても平成29年度4月時点での受入枠を早急に増やす必要があります。

一方で新設保育所の4、5歳児枠は、新規入所を希望される方が少なく、開所後2年ほどは定員割れしている施設が散見されます。市が公表している平成28年7月29日時点の認可保育所等の受入可能数を見ると、4、5歳児の定員空きは合計757名にもなります。認可保育所では、定員割れであっても保育士配置基準は定員に対して充足しなければならないことから、活用されていない保育士が相当数存在すると考えられます。

この現在活用されていない4、5歳児の保育士とその預かりスペースを活用すれば、更に多くの1歳児を預かることが可能となるのではないのでしょうか。

横浜市、さいたま市、東京都中央区、中野区などでは既に、4、5歳児の空きを利用した1歳児の預かり保育を実施しております。例えば横浜市では、新設園の4、5歳児室等を活用した年度限定型保育事業を平成26年4月より実施しています。

本市でも待機児童対策の取組における「多様な手法を用いた保育受入枠の確保」の一環として、同様の制度を実施することが望ましいと考えます。限りある財源を有効に活用するためにも、現状の資源を余すことなく使い切るための効率的かつ柔軟な対応が必要であると考えます。

地域の活力を維持していくために、子育て支援や、次代を担う子どもの育成が欠かせません。保育園に入所できず、退職を余儀なくされれば、教育費を捻出できず、子どもの教育の機会が奪われることになりかねません。また、待機児童対策に前向きな地域には世帯年収の高い世帯の入居が見込まれ、税収増への貢献も期待できます。この問題を、子育て世帯に限った問題と捉えず、解決することにより様々な世帯に恩恵があることを御認識いただき、世代が交流しながら、にぎわいのある拠点の形成を始めとした活力あるまちづくりがなされることを強く期待します。

紹介議員

橋	本	勝
花	輪	孝一
山	田	益男
渡	辺	学
小	田	理恵子
重	富	達也
月	本	琢也
三	宅	隆介
添	田	勝